

## 琵琶湖・瀬田川の水質概況速報(平成 26 年度(2014 年度)第 1 四半期)

琵琶湖環境科学研究センターでは、水質汚濁防止法第 16 条の規定に基づき作成した公共用水域水質測定計画等に基づき、琵琶湖および瀬田川で採水、水質分析を実施しています。このたび、平成 26 年度第 1 四半期分について水質概況速報がまとまりましたので報告します。

なお、琵琶湖・瀬田川水質は、年間を通した解析により正式な評価を行うため、ここで公開する速報値が、後日、修正を加えられる可能性があることをご了承ください。

### ◎調査方法について

北湖 28 地点、南湖 19 地点、瀬田川 2 地点の計 49 地点において、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、(独)水資源機構および当センターで協力、分担し表層 0.5m での毎月の水質変動を調査しています。

また、琵琶湖の北湖深層部における水深別調査は、当センターでは今津港と長浜港を結ぶ線上のほぼ中央の水深約 90m 地点今津沖中央 (通称「17B」)において、月 2 回実施しています。



### ◎調査結果について

琵琶湖北湖の代表点として今津沖中央(17B)、南湖の代表点として唐崎沖中央(6B)のそれぞれの経月変化からみる平成 26 年度第 1 四半期までの水質概況は次のとおりです。

#### ○ 唐崎沖中央調査結果(6B)

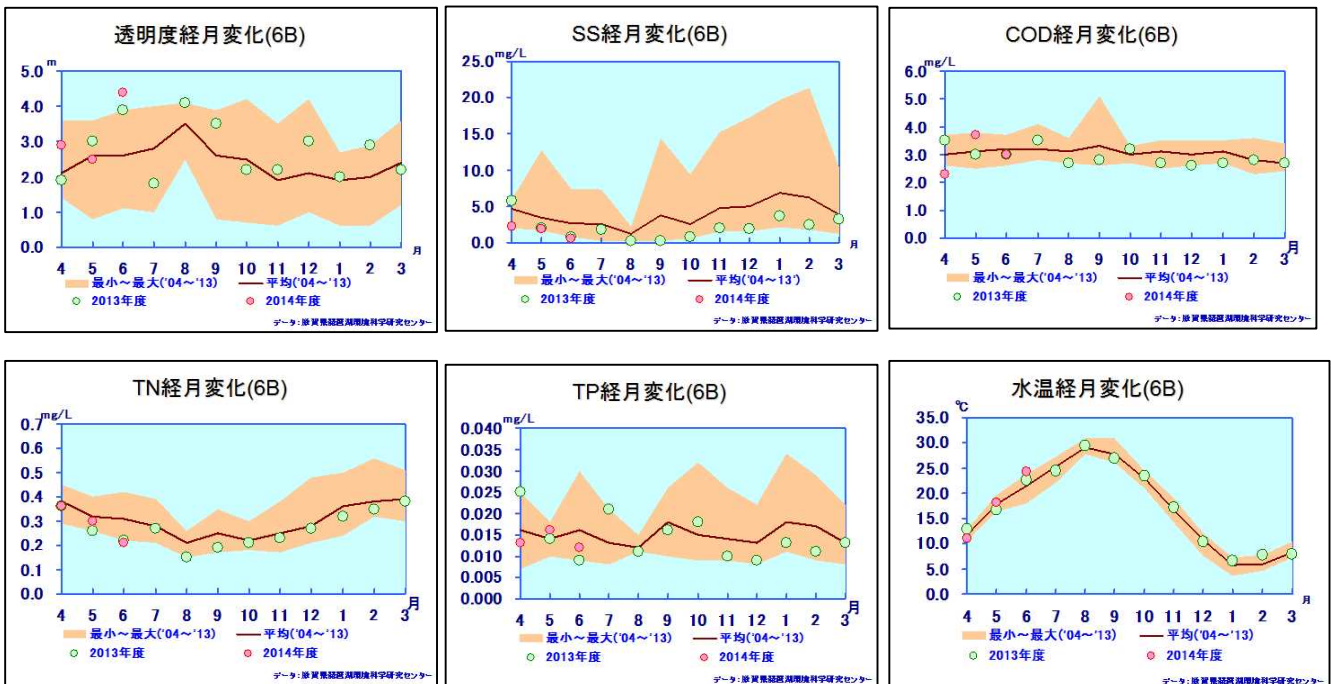
透明度については、4 月は過年度(過去 10 年間)平均値よりもやや高い値でした。5 月は過年度平均値並みの値でした。6 月は過年度平均よりも高くなり、全透(透明度が水深(4.4m)以上)となりました。

SS は 4、5、6 月とも過年度平均値よりも低い値となりました。特に透明度が全透を記録した 6 月は 0.5 mg/L となり、過年度最低値(0.8 mg/L)よりも低くなりました。

有機汚濁の指標である化学的酸素要求量(COD)については、4 月が 2.3 mg/L と過年度最低値(2.6 mg/L)よりも低くなりましたが、5 月は一転して過年度平均値よりも高くなりました。6 月は過年度平均並みの値でした。

富栄養化項目である全窒素(TN)は、4、5 月は過年度平均値並みの値でしたが、6 月は 0.21 mg/L と過年度最低値(0.22 mg/L)よりも低くなりました。全りん(TP)は、4、5、6 月とも過年度並みの値となりました。

水温は、4、5 月は過年度平均値並みの値でした。6 月は 24.3℃となり、過年度最高値(23.7℃)よりも高い値となりました。



○今津沖中央調査結果(17B)

透明度については、4月は6.2mと過年度最低値(6.7m)よりも低くなりました。5月は過年度平均値並の値でした。6月は10.6mと過年度最高値(10.5m)のよりも高くなりました。

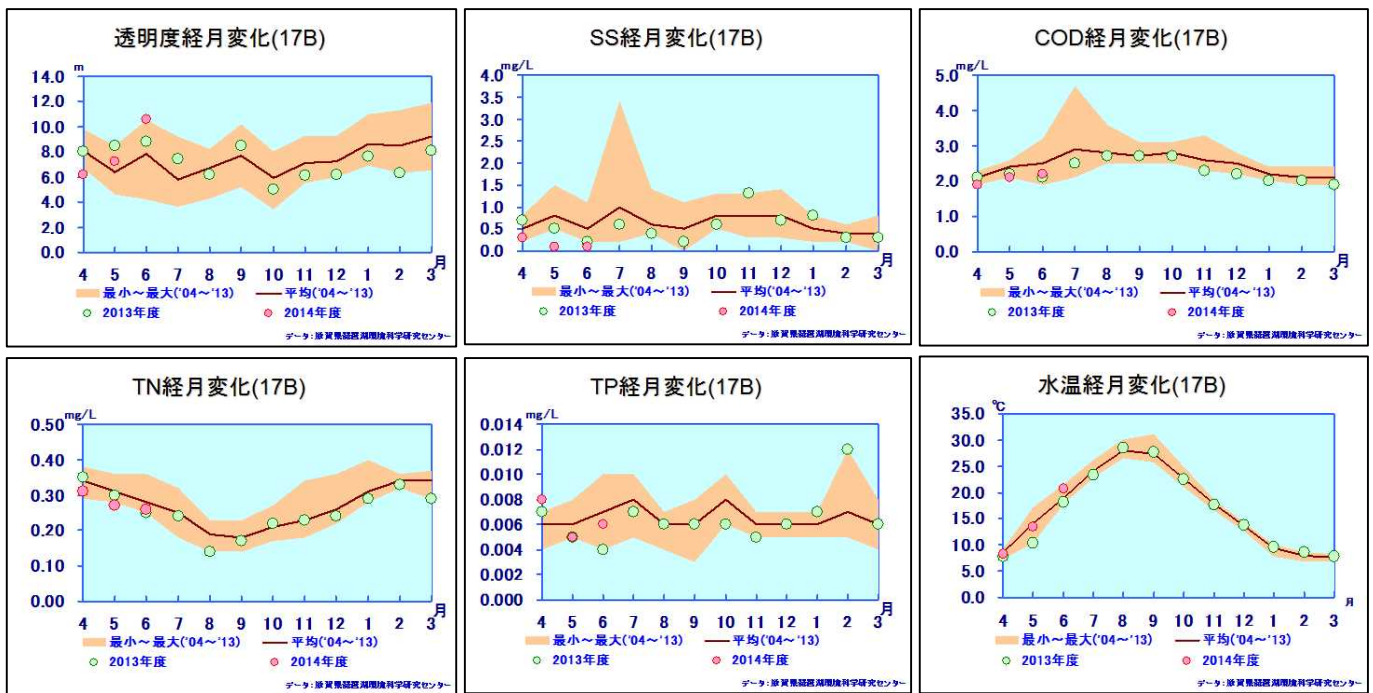
浮遊物質(SS)については、4、5、6月とも過年度平均値よりも低い値となりました。特に5月は過年度最低値(0.5 mg/L)よりも低い0.1 mg/Lとなり、6月も過年度最低値(0.2 mg/L)よりも低い0.1 mg/Lとなりました。第1四半期は全般的に値が低くなりました。

CODについては、4月は1.9 mg/L、5月は2.1 mg/Lと過年度最低値と同値となりました。6月も過年度平均値よりも低い値となりました。

全窒素(TN)は、4月は過年度平均値よりも低い値となりました。5月は0.27 mg/Lと過年度最低値(0.28 mg/L)よりも低くなりました。6月も過年度平均値よりも低くなりました。

また、全りん(TP)は4月は0.008 mg/Lとなり、過年度最高値(0.007 mg/L)よりも高い値となりました。5月は過年度最低値(0.005 mg/L)と同値となりました。6月は過年度並みの値となりました。

水温は、4、5月は過年度平均値並みの値でした。6月は過年度平均値よりも高い値となりました。



《問い合わせ先》

〒520-0022 大津市柳が崎 5-34  
 滋賀県琵琶湖環境科学センター  
 環境監視部門 公共用水域担当  
 TEL:077-526-4255 FAX:077-526-4803  
 E-mail: [dc51400@pref.shiga.lg.jp](mailto:dc51400@pref.shiga.lg.jp)